

小中一貫教育実践校グループ

大泉第二中学校・大泉南小学校・大泉第二小学校

中学校区の特徴

- ・地域には畑等の自然が多く、素直で伸び伸びと育っている児童生徒が多い。
- ・保護者や地域の方が積極的に学校に関わり、地域全体で児童生徒を支えようという環境がある。

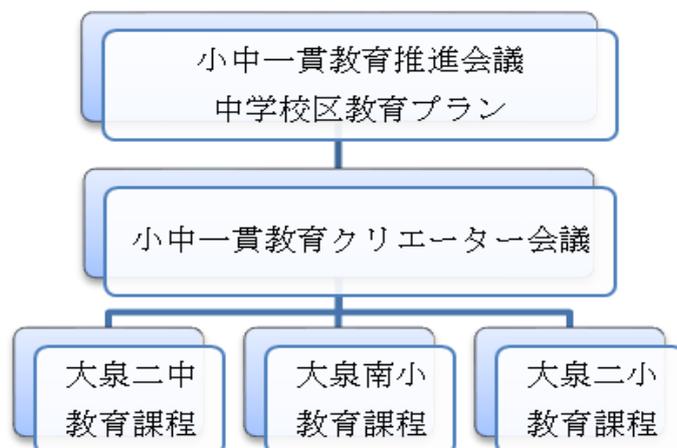
目指す 15 歳の姿

義務教育を終える 15 歳では「社会で通用する基礎的な力を身につけ、社会に貢献する人間となる」ことを目標とする。

1 目指す 15 歳の姿の具現化に向けた取組

義務教育を終える 15 歳では「社会で通用する基礎的な力を身につけ、社会に貢献する人間となる」ことを目標とする。そのための一つの手段として、大泉第二中学校で使用している同じ形式の“キャリアパスポート”を小学校でも使用し、9年間のキャリア教育を一貫性のあるものとして継続していきたいと考えている。

2 組織および実践計画



主な予定（年間計画）

6月 17日	校区别協議会・生活指導報告（大二中）
9月 9日	授業改善プラン検討10分科会（大二小）
10月 11日～13日	部活動見学
10月中旬	分科会ごとに指導案検討
10月 27日	校区别協議会にて研究授業（大二小）
11月初旬	大二中生徒会による学校説明用冊子配布 大二小・大南小児童へのアンケート
2月 24日	大二中教諭（社会科）による乗り入れ授業を両小学校で実施

大泉第二中学校・大泉南小学校・大泉第二小学校 グループの特色ある取組

「令和3年度の重点取組」

【重点取組1】 「目指す15歳の姿」の実現に向けた取組の実践

義務教育を終える15歳では「社会で通用する基礎的な力を身につけ、社会に貢献する人間となる」ことを目標とする。目指す生徒像の実現を目指し、学力向上をはかる取組みを進めてきた。

- 10分科会に分かれての授業研究を柱とする取組みも7年目を迎え、小・中両教員が教科の専門的な研究も進めていくことができ、各教科の特色をふまえたそれぞれの指導のあり方や系統性などについてさらに深めていくことができ、授業研究に取り組むことができた。
- 研究を通して、小学校教員は専門性が高い中学校教員の知識や指導技術を学ぶことができ、中学校教員は小学校各学年の学習段階や発達段階に合わせた指導法などを、具体的に学ぶことができた。
- 2017年度から始まった『児童・生徒の実態把握及び学習、生活指導上の課題と指導法』を模索していくための“生活指導7協議分科会(中一情報・言葉遣い・規律規則の徹底・いじめ不登校・あいさつ・特別支援・SNS)”は、コロナ禍の影響で中一情報分科会のみ行ったが小・中学校の教員同士の意識を向上させるためにも大変役に立つものなので、今後も続けていくこととなった。
- 各教科の分科会を中心に取組みを進めていったことで各教科の研究を深めることはとても良かったが、今後各教科の研究内容について中学校教員と異なる複数の教科等の指導を行う小学校教員が、その内容をどのように共有していくかについて、分科会後に全体会を設定し、さらに事後に記録用紙を回覧しているとはいえ、さらなる工夫が必要かと思われる。

【重点取組2】

豊かな心の育成に向けた取組の実践

- 大二中生徒会主導で小学校2校との共同“エコキャップ運動”を進め、交流をもつことができた。
- グループには距離的に離れている学校もあり、児童生徒の直接的交流ではなく上記以外にも、いじめ防止シンボルマーク作品の交流を行うなど活動を膨らませることができた。
- 地域・保護者へ向けての発信はかなり改善されてきたが、まだ十分ではないため、取組みについての周知の仕方等に工夫が必要かと思われる。



ポスター作品交流(大二中掲示板にて)

「令和3年度の成果と今後の方向性」

7年間続けている10教科分科会と3年間続けている生活指導7分科会による取組みを基本として可能な限り行ってきた。今年度は年間計画を見直し、より体系的な取組みができるようになった。今後は各教科の研究を深めるだけでなく、他分科会の取組みや情報をよりしっかりと共有できるようにしていきたい。